

取り組んだ日 月 日

国語 一―一	第五学年及び第六学年の内容 語い①	名前	年	組	番
-----------	----------------------	----	---	---	---

次の に当てはまる言葉をあとの から選び、書きましよう。また、その言葉の意味をあとのAからDの中から選び、() に記号を書きましょう。

① 今日は友達と出かける約束をしていたが、雨が降^ふってきたので、出かけるのが 。（ A ）

② 夏休みの三週間、祖母^{そぼ}の家で一緒にすごしたいとこと別れるのは、 。（ C ）

③ 夏休みの最終日、線香花火^{せんこう}をしながら 気分になる。（ D ）

④ 友達が、ぼくの尊敬^{そんけい}しているスポーツ選手の悪口を言っているのを聞き、 気持ちになった。（ B ）

ものがな 物悲しい	わずらわしい	いまましい	なごりおいしい
--------------	--------	-------	---------

- A 心をなやますことが多く、気が重いこと。
B 非常に腹立^{はらだ}たしく感じること。
C 心がひかれて、別れるのがつらいこと。
D なんとなく悲しい気分になること。

国語 一一二	第五学年及び第六学年の内容 語い②	名前	年	組	番
取り組んだ日 月 日					

次の [] に当てはまる言葉をあとの [] から選び、書きましよう。また、その言葉の意味をあとのAからDの中から選び、() に記号を書きましよう。

- ① 山本先生は、いつも [熱意のある] 指導しどうをしてくださる。(D)
- ② 彼はサッカーの歴史に [明るい] 人である。(C)
- ③ 彼は昔から [向こう見ず] な人であり、心配だ。(A)
- ④ わたしの父は、家族の考えにも反対することが多く [気難しい] 人である。(B)

きむずか
気難しい 明るい 向こう見ず 熱意のある

- A 将来しょうらいのことをよく考えずに行動しやうどうしてしまう。
- B 何かと自分の考えにこだわったり、神経質しんけいしつだったりして、あつかいにくい。
- C その物事や方面にくわしい。
- D 強いやる気や意気ごみをもっている。

国語 二一一	第五学年及び第六学年の内容 古文・漢文①	名前	年	組	番	取り組んだ日	月	日
-----------	-------------------------	----	---	---	---	--------	---	---

げんだいごやく
現代語訳 (例)

まくらのそうし
枕草子

せいしょうなごん
清少納言

春は明け方がよい。だんだん白くなっていく山ぎわの空が、少し明るくなって、紫むらさきがかった雲が細くたなびいているのがよい。

夏は夜がよい。月のころは言うまでもないが、月のない闇夜やみよでもやはり、蛍ほたるがたくさん飛びかっているのはよい。ただ一ぴき二ひきと、かすかに光りながら飛んでいくのも、しみじみとしてよい。雨などが降ふるのもよいものである。

秋は夕暮ゆうぐれがよい。夕日が差して、山にとても近くなったところに、鳥からすがねぐらに行こうとして、三羽四羽、二羽三羽などと、急いで飛んでいく様子までしみじみとしたものを感じさせる。まして、雁がんなどが列を作っているのが、とても小さく見えるのは、たいへん味わい深いものだ。日がすっかりしずんでしまつて、風の音や虫の音などがするのも、言い表しようがなくよいものだ。

冬は早朝がよい。雨が降っているのは言うまでもない。霜しもが真つ白なものも、またそうでなくても、とても寒いときに、火などを急いでおこして、炭すみを持ち運ぶ様子も、たいへん冬らしい。昼になって、寒さがやわらいでくると、火桶ひおけの中の火も白い灰はいが多くなつてきて、よくない。

国語 一一二	第五学年及び第六学年の内容 古文・漢文②	名前	年	組	番
-----------	-------------------------	----	---	---	---

取り組んだ日	月	日
--------	---	---

げんだいごやく
現代語訳（例）

たけとりものがたり
竹取物語

さくしゃふめい
作者不明

たけとり おきな
昔、竹取の翁とよばれる人がいた。
翁は、野山に分け入って竹を取っては、
いろいろな物を作るのに使っていた。
名前を「さぬきのみやつこ」といった。

ちくりん
ある日のこと、その竹林の中に、
根元の光る竹が一本あった。
不思議に思って、
ちかよ
近寄って見ると、
つつ
筒の中が光っている。
それを見ると、手にのるぐらいの小さな人が、
とてもかわいらしい様子ですわっていた。

国語
三十一

第五学年及び第六学年の内容
話し言葉と書き言葉①

名前

年 組 番

取り組んだ日 月 日

1 はかるを、文に合った漢字に直しましょう。

2 あついを、文に合った漢字に直しましょう。

① 五十メートル走のタイムをはかる。

① 今年の夏はとてもあつい。

計る

暑い

② 身長をはかる。

② 砂浜があついので素足で歩くことができない。

測る

熱い

③ 体重をはかる。

③ 分あつい本を読む。

量る

厚い

④ タイミングをはかる。

④ あつい布団をかける。

計る

厚い

⑤ 解決をはかる。

⑤ かぜをひいて、体があつい。

図る

熱い

⑥ 校庭の面積をはかる。

⑥ 彼は人情があつい。

測る

厚い

⑦ 熱をはかる。

⑦ あつい湯を用意する。

測る

熱い

国語 三十二	第五学年及び第六学年の内容 話し言葉と書き言葉②	名前	年 組 番	取り組んだ日 月 日
-----------	-----------------------------	----	-------	---------------

1 つとめるを、文に合った漢字に直しましょう。

2 おさめるを、文に合った漢字に直しましょう。

① 問題の解決かいけつにつとめる。

努める

① 成功をおさめる。

収める

② 会社につとめる。

勤める

② 注文品をおさめる。

納める

③ 主役をつとめる。

務める

③ 紛争ふんそうをおさめる。

収める

④ 看病かんびょうにつとめる。

努める

④ 国をおさめる。

治める

⑤ 早寝早起ねにつとめる。

努める

⑤ 税金ぜいきんをおさめる。

納める

⑥ 委員長をつとめる。

務める

⑥ 遺体いたいをひつぎにおさめる。

納める

⑦ 銀行につとめる。

勤める

⑦ 学業をおさめる。

修める

次の漢字の読みを右側に書きましょう。

【ぢ・じ】

①鼻血 はなぢ

②日常 にちじょう

③間近 まぢか

④地味 じみ

⑤縮む ちぢむ

⑥地割れ じわ

【ず・づ】

①深爪 ふかづめ

②湖 みづうみ

③三日月 みかづき

④片付け かたづけ

⑤貧しい まず

⑥心積もり こころづ

次の漢字の読みを右側に書きましょう。

【おお・おう・お・う】

①女王 じょおう

②通り とお

③氷 こおり

④大きい おお

⑤様子 ようす

⑥往路 おうろ

⑦横暴 おうぼう

⑧大げさ おお

⑨当分 とうぶん

⑩尊い とつと

⑪遠目 とおめ

⑫羊毛 ようもう

国語 五―一	第五学年及び第六学年の内容 語句の構成、変化①	名前	年	組	番
取り組んだ日 月 日					

(じゆくゝい)
の熟語を、種類ごとに分けましょう。

作文	出発	古都
養蚕 <small>ようさん</small>	労働	光線
	遠近	増減 <small>ぞうげん</small>

①意味が対になる漢字の組み合わせ (例 強弱)

〔 遠近 増減 〕

②似た意味にの漢字の組み合わせ (例 価値かち)

〔 労働 出発 〕

③上の漢字が下の漢字を修飾しゆしよへくする関係にある

組み合わせ (例 車内)

〔 光線 古都 〕

④「―を」「―に」に当たる意味の漢字が下に来る

組み合わせ (例 見物)

〔 養蚕 作文 〕

国語 五―二	第五学年及び第六学年の内容 語句の構成、変化②	名前	年	組	番
取り組んだ日					
月					
日					

じゆくご

の熟語を、種類ごとに分けましょう。

海底	身体	苦楽	明暗	開店
読書	木刀	先頭		

①意味が対になる漢字の組み合わせ (例 公私こうし)

〔 苦楽 明暗 〕

②似た意味にの漢字の組み合わせ (例 仁愛じんあい)

〔 身体 先頭 〕

③上の漢字が下の漢字を修飾しゆししよくする関係にある

組み合わせ (例 最善さいぜん)

〔 海底 木刀 〕

④「―を」「―に」に当たる意味の漢字が下に来る

組み合わせ (例 帰国)

〔 開店 読書 〕

国語 六一一	第五学年及び第六学年の内容 語句の由来①	名前	年	組	番
取り組んだ日					
月					
日					

一 次の言葉の由来としてふさわしいものをあとのアからカの中から
 選び、() の中に書きましよう。

- ① おやつ (ウ)
 - ② こめかみ (エ)
 - ③ うのみ (カ)
 - ④ しおり (オ)
 - ⑤ あめんぼう (ア)
 - ⑥ かえで (イ)
- ア とらえると水あめのようなにおいがすることから。
- イ 葉の形がカエルの手に似ていることから。
- ウ 八つ時(午後三時ごろ)に食べたことから。
- エ 米など、ものをかむと動く部分であることから。
- オ 山道などで木の枝を折って、帰りの道のしるしとしたことから。
えだ
- カ 鶺鴒うのように食べ物をかまないのみこむという意味から。

国語 六―二	第五学年及び第六学年の内容 語句の由来②	名前 年 組 番	取り組んだ日 月 日
-----------	-------------------------	-------------	---------------

一次の言葉の意味としてふさわしいものを下のアからウの中から
 選び、() の中に書きましよう。

- ① 和語 (ウ) ア 古くに中国から入ってきた言葉。
- ② 漢語 (ア) イ 外国(中国以外)から入ってきた言葉。
- ③ 外来語 (イ) ウ もともと日本にあった言葉。

二次の言葉は、和語・漢語・外来語のどれですか。○で囲みましよう。

- ① ランチ (和語・漢語・**外来語**)
- ② 昼飯 ひるめし (**和語**・漢語・外来語)
- ③ 昼食 ちゆうしょく (和語・**漢語**・外来語)
- ④ スピード (和語・漢語・**外来語**)
- ⑤ 速さ はや (**和語**・漢語・外来語)
- ⑥ 速度 そくど (和語・**漢語**・外来語)

国語 七一	第五学年及び第六学年の内容 文や文の構成①	名前	年	組	番
----------	--------------------------	----	---	---	---

取り組んだ日	月	日
--------	---	---

次の――の接続語の働きとしてふさわしいものをあとのアからカの中から選び、（ ）の中に書きましよう。

- ① 雨が降^ふってきた。でも、傘^{かさ}はささないで行く。 (ア)
- ② バスで行くか。それとも電車で行くか迷^{まよ}っている。 (ウ)
- ③ 自由に遊んでよい。ただし、室内だけにする。 (オ)
- ④ 毎日走る練習をした。だから、体力がついたのだ。 (イ)
- ⑤ 食後にイチゴが出る。また、リンゴも出る。 (エ)
- ⑥ 家に帰ってきた。そして、宿題をやった。 (カ)
- ア 前と対立することを述^のべる。
- イ 前のことを理由や原因^{げんいん}にする。
- ウ 前か後か、どちらかを選ぶ。
- エ 前と同様のことを付け加える。
- オ 前^{おぎな}のことを補う。
- カ 事柄^{ことがら}を新しく展開^{てんかい}させる。

次の文の主語・述語じゆつごを探して、その関係をあとのアからウの中から
選び、() の中に書きましよう。

- ① 今日は、とても暑い。(ア)
- ② 気温も高く、湿度しつども高い。(イ)
- ③ 日差しが強いので、私わたしは帽子ぼうしをかぶった。(ウ)
- ④ 帽子が風で飛んだ。(ア)
- ⑤ わたしは、犬を飼かっている。(ア)
- ⑥ わたしが飼っている犬は、大きい。(ウ)
- ⑦ 犬が追いかけているボールは、赤い。(ウ)
- ⑧ 犬がくわえたボールを受け取った弟が、走る。(ウ)

ア 主語と述語が一組しかない。(単文)

イ 主語と述語が二組以上あって、同等にならないでいる。(重文)

ウ 主語と述語が二組以上あって、修飾関係しゆししよくや付け加える関係

などで同等ではない。(複文ふくぶん)

国語 八十一	第五学年及び第六学年の内容 敬語①	名前	年	組	番
-----------	----------------------	----	---	---	---

取り組んだ日	月	日
--------	---	---

次の言葉の尊敬語・謙譲語を書いて、表を完成させましょう。

言葉	<p>尊敬語</p> <p>相手を敬う気持ちを表す</p>	<p>謙譲語</p> <p>自分や身内の動作を謙遜して言うこと とでその動作を受ける人への敬意を表す</p>
見る	ご覧 <small>らん</small> になる	拝見 <small>はいけん</small> する
言う	①おっしゃる	②申し上げる・申す
行く	③いらっしゃる おいでになる	④うかがう
くをする	くされる くなさる	くいたす
食べる	召 <small>め</small> し上がる	⑤いただく
聞く	お聞きになる	⑥うかがう

次の場面にふさわしい言葉をあとのアからオの中から選び、()
の中に書きましょう。

① 校長先生が言った。(オ)

② 「お母さんは、出かけています。」(エ)

③ 「田中さんが来たと父に伝えておきます。」(イ)

④ (お客さんへすすめる)「どうぞ食べてください。」(ウ)

⑤ 木村さんに花束をあげた。(ア)

ア 差し上げた

イ めいらつしやった

ウ 召し上がって

エ 母

オ おっしやった

国語 九一一	第五学年及び第六学年の内容 表現の工夫①	名前	年 組 番
-----------	-------------------------	----	-------

次の詩の表現の工夫としてふさわしいものをアからエの中から選び、
 () の中に書きましよう。

おいしい季節

コリコリ コリコリ
 たき立ての ごはんの中に たくさん入っている
 コリコリ コリコリ
 ちようどいい歯ごたえで ほんのりあまい
 春はやっぱり たけのご飯
 ようし
 今年も一年 ぐんぐんのびるぞ

シャリシャリ シャリシャリ
 シロップかけて くだものせて
 シャリシャリ シャリシャリ

ひんやりとして とってもあまい
 夏はやっぱり かき氷
 キーン

体が冷ぞう庫みたいだ

ほくほく ほくほく
 あっあつの 石の上にならんでる
 ほくほく ほくほく
 中が 金色にかがやいている
 秋はやっぱり やきいもだ
 ほうら
 食べると 体がこたつみたいだ

ぐっぐつ ぐっぐつ
 お肉に白菜 大根 にんじん いろいろ入れて
 ぐっぐつ ぐっぐつ
 みんなそろっていただきます
 冬はやっぱり おなべで煮まり
 たくさん食べて
 今年も一年 ありがとう

「コリコリ」
① (ウ)

「シャリシャリ シャリシャリ」
「シャリシャリ シャリシャリ」
② (イ)

「体が冷ぞう庫みたいだ」
③ (ア)

何行かまとめて、内容のまとまりをつくる。
④ (エ)

ア ひゆ 比喩(たとえを使った表現)

イ 反復

ウ 擬声語・擬態語(音や様子をたとえる表現)

エ 連

文末の言葉によって、文の意味は変わります。

次の文は、どのような意味を伝える言葉になりますか。あとのアからオの中から選んで（ ）に書きましよう。

本を読む。

- ① 本を読みたい。 (イ)
- ② 本を読みつもりだ。 (エ)
- ③ 本を読みますか。 (ウ)
- ④ 本を読みなさい。 (オ)
- ⑤ 本を読みましよう。 (ア)

ア 相手をさそう。

イ 自分の希望を述べる。

ウ 相手に質問する。

エ 自分の意志を述べる。

オ 相手に命令する。